

# 令和2年度「学ぶ力」育成プログラム

学校番号：36002  
学校名：札幌市立石山中学校

<b>改訂のポイント</b>		○生徒が「わかる」「できる」「楽しい」授業の構築 ○生徒が自主的に学習の見通しをもち、意欲をもって課題に取り組む指導の充実		
<b>項目名</b>	<b>項目内容</b>	<b>項目内容の具体</b>		
<b>目標</b>	「学ぶ力」の育成に係る目指す子ども像	☆「基礎・基本」や「学ぶ方法」を身につけ、自ら学び続けようとする意欲を高めること ☆習慣的な自主学習や成果の確認・評価を通して問題解決に挑戦していけるようになること		
<b>「学ぶ力」に関する成果や課題</b>	<b>学ぶ意欲</b>	<b>【昨年度の具体的な取組】</b> ・ICT機器の活用や体験的学習による興味の喚起を行った。個々の取組を綿密な計画に基づいて行わせ、確認テストや課題レポートなどで確認・評価した。	<b>【成果】</b> ⇒授業内容が変化に富むことで集中力の持続や意欲喚起につながった。苦手な生徒でも一定以上の成果が見られた。形成的評価を行うことで、基礎学力の向上と学習意欲の向上につながった。	<b>【課題】</b> ◇生徒の取り組み方の個人差や、授業内容のメリハリに配慮が必要。作業教材の充実、取組内容と授業進度とのバランスへの配慮が必要。
	<b>思考力・判断力・表現力等</b>	<b>【昨年度の具体的な取組】</b> ・グループ交流や体を使った表現などを盛り込んだり、感じとる力を重視する授業を行った。 ・資料活用的課題や自分の考えを表現する課題に取り組ませた。 ・評価規準や取り組み方のポイントを明確にし、見通しをもって取り組ませた。	<b>【成果】</b> ⇒思考力の獲得と他の意見への理解力が向上した。より深く感じ取り、表現する力が身についた。データ処理の仕方や、資料の読み取り方、説明の仕方に向上が見られた。見通しをもって課題に取り組む、工夫を行えるようになった。	<b>【課題】</b> ◇取組の個人差、表現の工夫の仕方、思考・表現活動の機会を授業に盛り込むバランスなどが課題である。 ◇生徒の自由な発想や感覚を狭めず、より伸ばすことのできる指導や配慮が必要。
	<b>基礎的・基本的な知識及び技能</b>	<b>【昨年度の具体的な取組】</b> ・定期的な単元テストや基礎練習の実施、家庭学習課題やテスト前・長期休業中の学習会の実施、合格になるまでの反復練習・テストなどの実施	<b>【成果】</b> ⇒形成的な評価や技術の習得により、次の課題に向かう意欲や知識習得の意識づけができ、生徒の到達度の把握や授業展開にも役立てることができた。	<b>【課題】</b> ◇意欲や到達度の個人差の問題があり、克服のための時間的制約や応用につなげる工夫や内容のバランスが必要
<b>今年度の具体的な改善策(取組)</b>	<b>取組の最重点</b>	<b>【取組の共有】</b> 基礎・基本の確実な定着に向けた授業の工夫・改善と学習習慣の確立～「わかる」「できる」「楽しい」授業の構築		
	<b>具体的な改善策(取組)</b>	○校内研修会の充実と、子どもが意欲的に取り組める分かりやすい授業の工夫・改善を図る。 ○各教科のねらいに応じて、様々な授業形態を試み、意見交流を通して相互が高まる授業の工夫・改善を図る。 ○課題探究的な学習を取り入れ、既習事項の活用や、自分で学習の見通しをもちながら主体的に学べる授業の構築を図る。 ○学習相談日の活用や、定期テスト前の補充学習、TTや少人数指導による個別の学習支援体制の確立を図る。 ○単元ごとに目標設定や到達度の確認を行い、子ども自身が自らの成長や変容を感じとれる取組を行う。 ○今年度の取組を継続することで、細かいステップを踏んで理解を深めていく。 ○振り返りを重視した学習のサイクルを構築し、自らの伸びを実感できるような授業展開や評価方法を実践する。 ○明確な根拠や意図による表現指導の充実。自由発想と他の努力・能力への否定との違いをしっかりと指導する。		
<b>方法</b>	<b>各種調査や子どもの自己評価指標の活用</b>	○全国学力・学習状況調査やWAT、学校独自のアンケート調査結果を活用し、校内研修会で検証 ○札幌市全体の共通指標(子どもの自己評価)を活用し、本校の実態との比較検証 ○日常のテストやノート、授業における観察、課題等を通じて行う、各教科の観点別評価の活用		